

令和5年度第2回大野市環境保全対策審議会 議事要旨

日 時 令和6年2月21日(水)
午前10時~午前11時30分
場 所 結とぴあ 3階 302号室

1 会長あいさつ 小松会長あいさつ

2 議事

(1) 第三期大野市環境基本計画の改訂(案)について

- ・事務局より、資料1「第三期大野市環境基本計画(改訂案)に係るパブリックコメントの結果について(案)」、資料2「主な修正点(第三期大野市環境基本計画の改訂(案))」、資料3「第三期大野市環境基本計画の改訂(案)(新旧対照表 改訂部分のみ抜粋)」に基づき、令和6年1月25日から2月7日の14日間かけて実施したパブリックコメントに寄せられた意見とそれに対する市の考え方について説明を行った。
- ・委員からの意見等は次のとおり(要旨)

<意見 No. 1、2について>

- 委員 : パブコメの意見 No. 1、No. 2 は、市内の資源を有効に活用して、自分たちのまちを自分たちの力で維持発展させてきたいという思いが根底にあると感じる。市の方針は理解できるが、具体的な取り組みや現況の分かる数値も交えると分かりやすく納得のいく回答になるのではないか。
- 委員 : 嶺南地域の市民出資による小水力発電は、出資すると買電利益の一部が配当される仕組み。出資することで、出資した市民一人一人が、自分たちが地域の資源を守っているという意識付けにもなっていると思う。市により公営発電所を建設するのは難しいと理解している。市が民間事業者と市民の間に入って、同様の取り組みができると良い。
- 会長 : 事務局案のとおり、改訂案への修正はないが、委員からのご指摘のとおり、「回答(市の考え方)」については、できるだけ具体的な取り組みや数値も盛り込めないか検討してもらおうということにより。

(各委員からの反対意見なし)

- 委員 : 発電量など、市内の木質バイオマス発電所のことを教えてほしい。この木質バイオマス発電所のことを詳しく知らない市民も多いと思う。
- 事務局 : 市内の木質バイオマス発電所は、未利用資源である間伐材の利活用を目的に平成28年から民間事業者により操業がスタートしている。発電能力は7,340kWで、年間発電量は、最大で1年間の家庭で使用する発電量15,000世帯分相当と聞いている。発電した電力は全量がFIT制度により国の機関に買い取ってもらっているので、市内で使用している形にはなっていない。FIT制度による買取期間は20年であるため、この買取期間終了後は、市内で消費できる形になるよう、発電所と協議していきたい。

光害についてだが、屋外照明は、保安点検用に必要なものだと聞いている。しかし、本年度の7月から8月にかけて実施したライトダウンキャンペーンでは協賛してもらい、市内一斉消灯をお願いした時間帯である午後9時から午後10時の間、発電所の屋外照明の消灯に協力をしてもらっている。引き続き、コミュニケーションを密にして、協力をお願いしていきたい。

(2)大野市環境基本計画令和4年度年次報告書(案)について

(3)令和6年度の主な取組について

- ・事務局より、2つの議題は関連があるため、資料4「R4 - 5年度の環境トピックス」、資料5、「大野市環境基本計画令和4年度年次報告書(案)」、資料6「R6年度の主な取組(案)(環境・水循環課)」により一括して説明を行った。
- ・委員からの意見等は次のとおり(要旨)

<令和5年度年次報告書における改訂後(R6.3 予定)の数値目標の取り扱いについて>

○委員 : 次回の令和5年度年次報告書は、今回の改訂前の計画に基づくものであるが、改訂後の数値目標などを記載する予定か。

事務局 : 混乱を避けるため、両方の数値を掲載したい。

<生物多様性の認知度について>

○委員 : 年次報告書(案)の26ページ、生物多様性の認知度については達成状況が不明となっているが、今後どうする予定か

事務局 : 計画の中間見直しを令和7年度に実施予定。その際にアンケート調査により調べる見込み。

<ごみ減量の取り組みについて>

○委員 : 現在、ごみ分別収集やりサイクル、処分の分業化が進みシステムが確立されたことで大変便利になったが、その弊害として経費がかかることと、市民はステーションに出すだけなので、自分事として考えられにくくなっているのではないかと危惧している。各家庭にコンポストを設置して堆肥化するなど、各家庭でできることは各家庭に任せられるようもっていけるとよい。

○委員 : 大野地区まちづくり協議会では、大野公民館にミミズコンポストを設置し、生ごみをたい肥化し、できたものは、協議会で世話をしている亀山の花壇などに使用する取り組みを実施している。継続してやっていきたい。

○委員 : 電気処理式の生ごみ減量器などは便利でよいかもしれないが、購入費や運用にお金がかかる。それよりも地面の上に設置するコンポストをおススメする。それ1基あれば家庭1件分の年間生ごみぐらいであればすべて処分ができる。コンポストに放り込むだけで、自然の力で堆肥化されていく。各家庭あるいは地区単位で設置が進むよう支援制度などがあってもよいと思う

事務局 : 現在、令和6年4月1日からのプラスチックごみ分別収集開始にむけた市民向け説明会において、ごみ減量化についても協力をお願いしているところ。生ごみは、ある程度乾燥もしくは水切りをしてからごみステーションに出すよう説明している。引き続き、

啓発に努めたい。

過去にコンポスト購入費に対する補助を実施していた時期があったが、ある程度、普及したということで補助制度が廃止された。コンポストの設置に当たっては、できる地域とできない地域があると思う。地域にあったやり方を研究していきたい。

(3) その他

- ・事務局 特になし
- ・委員 特になし

3 その他

(1) 次回開催予定 令和6年10月

- ・令和5年度環境年次報告書について
- ・各所属団体宛てに次期（R6～R7）委員の推薦依頼を4月初旬に発出する予定

4 閉会のあいさつ 小松会長